

I ICT活用のポイント

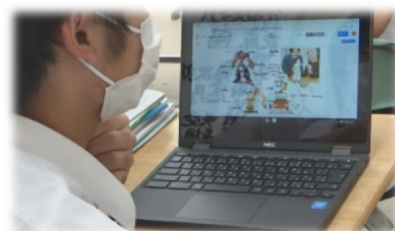
- 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方などを働かせながら、**コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動するための学習ツール**としてICTを効果的に活用する。
- 言語活動（特に「話す」・「書く」）の充実**を図る。パフォーマンスを記録し、児童生徒の学習改善や教師の指導・評価改善に生かすために、ICTを効果的に活用する。



- 英語を使う**必然性のある場面や状況**を設定する。
- 言語活動の更なる充実**、指導と評価の改善・効率化を図る。

2 実際の活用例

- ・言語活動において、写真や動画等を活用することにより、**日本語を介さずに英語を理解することを支援**する。
- ・話したり書いたりしたことを共有・保管することで、児童生徒による自己評価や相互評価、教師の記録に残す評価に活用し、**アウトプットの質を高める**。
- ・言語活動の導入や振り返りにアンケート機能を活用することにより、**言語活動の目的を明確**にしたり、児童生徒に**自らの学習状況を把握**させたりする。
- ・ホワイトボードソフトや文書作成ソフトを使って共同編集させることにより、**生徒の気付きを促したり、思考を深めさせたり**する。



3 実践事例の紹介

【小学校・5年・外国語・「He can bake bread well.」】

育成を目指す資質・能力

B 1 (個に応じた学習)

B 2 (調査活動)

山梨県の有名人についてよく知ってもらったりよく知ったりするために、その人のできることなどについて、具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりすることができる。

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】カメラ機能 学習支援ソフト 表計算ソフト

単元終末のパフォーマンスに向けて、1人1台端末を継続的に活用し、児童の学習改善や教師の指導改善・評価改善に生かす。

学習の流れ

身近な人のできることなどについてのやり取りの内容を理解する。

第三者についてより詳しく伝え合うための語句や表現を身に付ける。

自分が興味を持った山梨県の有名人について調べる。

資料を見せながら、山梨県の有名人について紹介し合う。

事例の概要

本題材では、山梨県の有名人について調べ、友達と紹介し合う活動を単元のゴールとして設定した。「He / She is ～.」や「He / She can ～.」といった表現や、様々な動作を表す語彙などを身に付けさせることによって、第三者について、より詳しく伝え合う単元である。

単元を通して、①調べ学習、②やり取りの撮影、③振り返りカードの記入の3点をICT活用の場面として設定し指導を進めた。

①調べ学習では、教師が事前に探したいいくつかのWebサイトを学習支援ソフトを使って児童と共有し、その中の情報から選ぶ形で行った。②やり取りの撮影では、カメラ機能を使い、撮影した動画を中間指導や記録に残す評価として活用した。③振り返りカードは、表計算ソフトで作成した枠に毎時間入力させ、児童の振り返りや教師の指導改善に生かした。

【中学校・3年・外国語・「Write an order to robot scientists」】

育成を目指す資質・能力

C 2 (共同での意見整理)

C 3 (共同制作)

ロボットを必要としている人を想起し、どのようなロボットが必要なのかを、英語で説明することができる。

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】ホワイトボードソフト 文書作成ソフト

ホワイトボードソフトでアイデアを共有することで、相手意識を明確にすることができる。文書作成ソフトの共同編集で、英文の質を高めることができる。

学習の流れ

帯活動：ホワイトボードソフトを使い英語で写真を説明する。

ホワイトボードソフトでロボットを必要とする人やロボットの特徴について、アイデアを共有する。

文書作成ソフトの共同編集を使い、グループでロボットの提案文書を作成する。

互いの提案文書を読み合い「内容面」と「言語面」からアドバイスをする。

事例の概要

本事例は、1人1台端末でホワイトボードソフトと文書作成ソフトを使い、共同編集を行うWritingの授業である。「ロボットを必要とする人たちのために、ロボット科学者に自分のアイデアが伝わる提案文書を書こう」という課題を設定した。

ホワイトボードソフトで、課題に対する互いのアイデアを共有し、相手意識を明確にすることで、目的・場面・状況等における「内容面の適切さ」を深めることができた。

また、文書作成ソフトの共同編集を活用し、グループで同じWriting課題に取り組んだ。一人では思い付かないような表現や語彙を英文に即座に反映させることができた。共同編集を行うことで、「英語使用の正確さ」を高めることにもつながった。

言語活動を通して、知識及び技能を活用しながら、思考力、判断力、表現力等を育成する事例である。

Webサイトには、上記の実践以外に、次の事例も掲載しています。

- 小学校4年・・・アンケート機能を活用した言語活動の導入やビデオ機能を使ったインタビュー活動の実践
- 中学校1年・・・アンケート機能やプレゼンテーションソフトを用いた学校紹介ビデオ作成の実践

